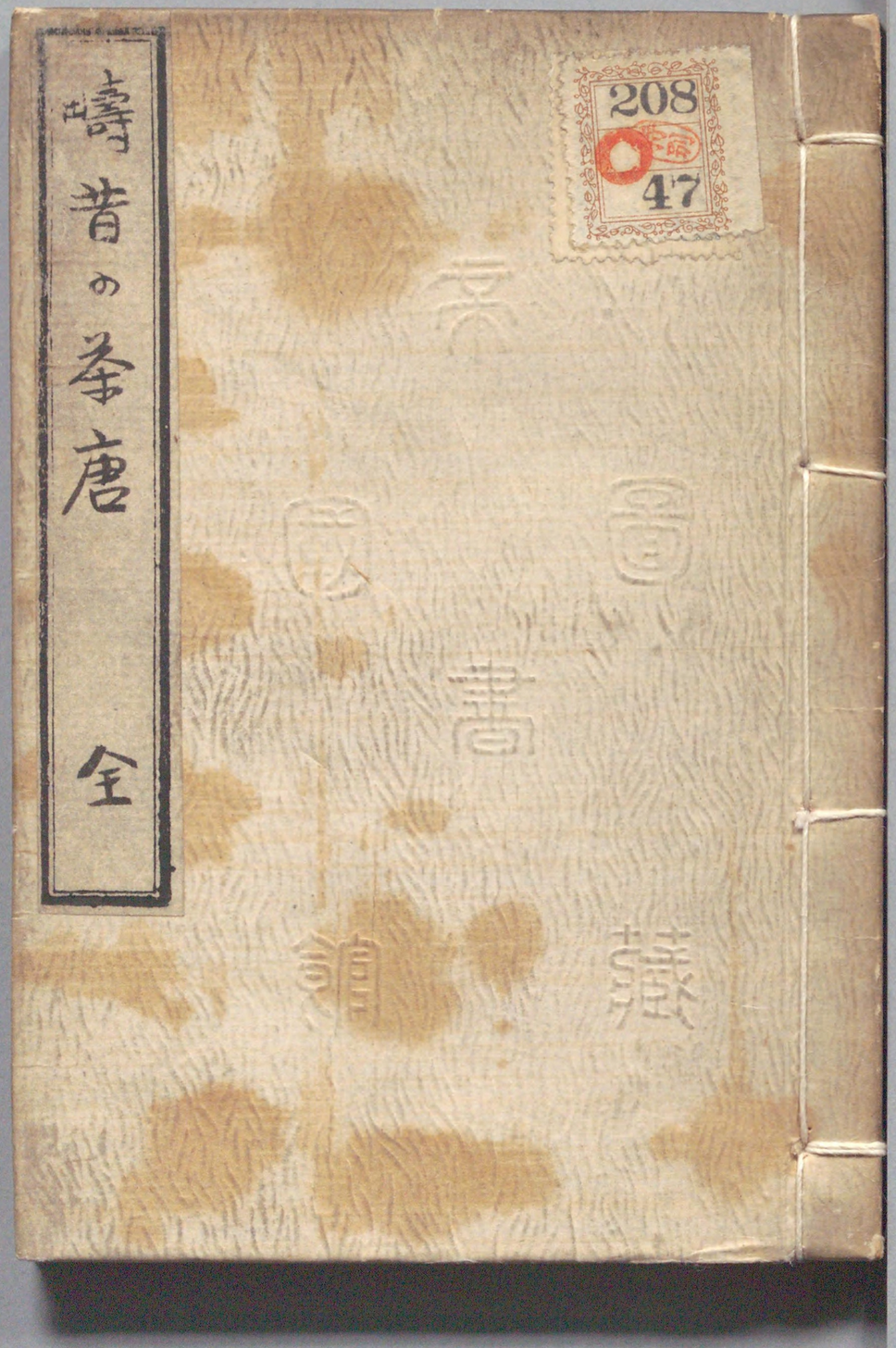


国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

といふすゝふかの底へ玉めくし
金玉などの名をひあらわり
といふ医師何かしが夜平の
茶漬の茶碗ふしてたれ
いふ是はあまんさんぱらんの家
の与平が著述なりとかふまぐて

彼書にのせたくさんの人ども夜
中の茶漬のあまもの茶乃二
番やんじゃい至るまであるる
乃山便ふいきぶれば其名を
夕べの茶がふその一行で茶
の瀬しみいへども女の中の喜

いつも同志乃茶呑友達あり
ておもしろきことて寝るまもわすれず
ぞ八書肆の幸栄ことをそ人ゟ需に
流石屋のゆうり息子
蝦蟇楼のあるし誌

序

仏に方便あり純が聖人に
験の道あり艶示楼主人が
茶屋乃書事席にしてつ
実ある艶にして儀あり

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　　ゆふへの茶から 208-47

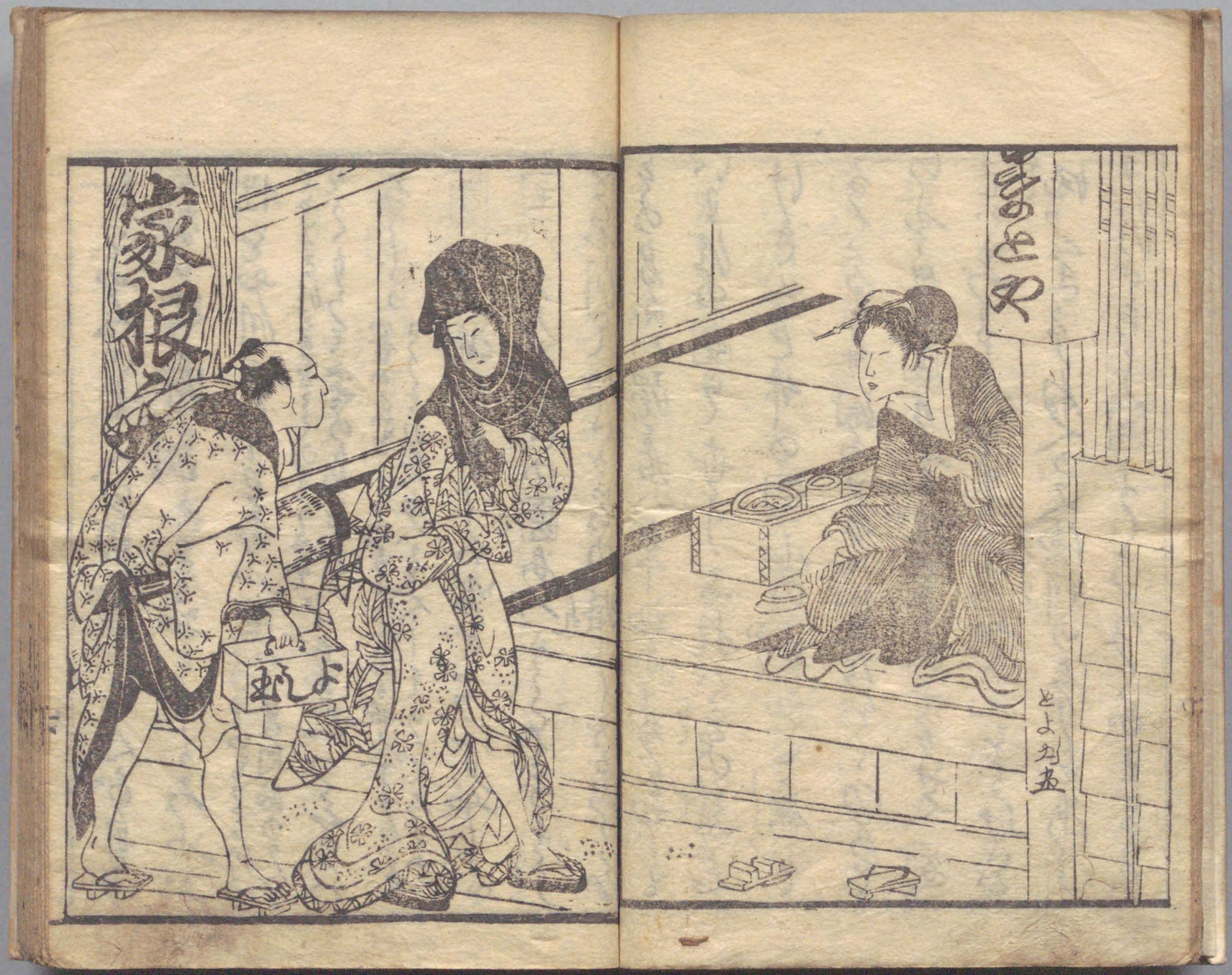
ガラス使用

さる人へバ都の花 杜甫の詩に
李白ハ酒一斗詩百へんといへど我ハ五升
の酒ふ和哥千首をよめるとも(?)ござまし
らいて門雖設而常関先きたる先きに泊
あるきおはふハ川も留るがちあれど若
放蕩者るの時ハ工鄙通の仲よ居して通
ふ来て梅源する客に一目座師走
当の新ぶとハしもむも身乃ほへ川うさ

ぬともかの日つゞく三春の潮の顔し
きみつゞくしも春のことにハいひより住
男の流茶の余りいろまりけしく
まんまの中よくえ謹利をつくして酒の
うんきながら仕をりなれ相済りとよんで居る
ぶ人入来がら海くつをもあり いかなる人でもよん
てあれバ兄も一ッ個の通子となへて
おんこもしおの合羽…ふかもんど八丈の羽織すがぬいの役
上田ぐへしとこへ…らくめん…中細下…丁子茶の…中箱

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用



国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

をいふんぞぞ人の見へきてそんな自由
がなる物か 客 さぞまアさぞおかしかろふぶ
性を此川でハトヨリふ 主 あまりもこら川て
いる甚内法のそんが
てきらこ川さをこ〻のきくまで ドウダ一ツくらハ
そろくなって客のちかをとって
ちかしう 客ハ皇をしあつかぶなる牲人下戸なく
さうそれ見人美人さへしものんでみなの
客 何よ此派あらしい此を一ツゆ中さ
主 ハテノちんぞの 客 あつさ〻にえなそ〻
さ見川でいろいろがらの嬪しがるふくしゆ

此さらさらでしてつよさ よふしい西でおぞこを
一ツくさ川でもたき
十二年さる所の書徳をさらしくをいつてあ
一ツ個の色男子があ川てのさ〻ちを画子
が源川ぐどん川もおが水口ん
久しく到盛でいく所が有一男がいく
ふもはハ此川でやる金も一アおる至宝
ならかし世かうも大きふかれて其派
女房があるきでいる男の此のしでも

国立国会図書館　　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

いろ財さんざまさしてしんで立ん中にがり
と色男ハいろきせきとらけてきて門口
うらあし溜ごしろさらふまるくこようを
見さられども時がりしでえきなとりこんで
みて地がありまんだと紙に封しておうさ数
小判で七八両もあるかありふ段な物を
ざしていさらへ世中ふ主意付て立さうふ
銭かい川てかふ見んさがいるわれかまといふ

ゆやァありかく銭くトいひすてて寺ふまさうけ
ざしていつて主まふト世ふねおかくるに
さ川きかふまちちたい川おてかさるの
なれバ用が立むとおもふ金大きにおかるま
しるとぎやまれたるところふ聴ともを
してまふ海りて主まふ袖中ふ大きふ
悦んで銭之川て金の封を切てみん
ろも中ふて金の無がありトいてみれが

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

ねへ深くたゞしてつんの内衆めてが様
びらりふりのござりますちりとせんきのる
らぶありねへ相がみきさいりんぞヨ今の
その味でおひざしさが見えあんぞうし
極サア川ちゃんざアいろりてん安イ
さる所ふ表徳を呑込てなし済
こちりてせりやふ書きけのさくさ
かりとほくしたきつさいゆゑの相へ色男

ちあるせつその男の相子さみ拗ハいろう
て来川でアどんかふたぶふつんぞくもに
い川もきゝらいけてとくるひんのい
男サこちくも女ふうと合し去奴が極人
の見らい女ふうふ手きであつまいハい川は
仲にへおりふいきく来ぬけがあると
きつき合でさきくいりて附乞しいる
ごとハ内の名は女ゆの名はそすもさご

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

跋

まづ雲もなんで縁起をいへハ
いまだ始まりし飯盛の茶の湯
頃柳原の土手を通りかゝりし小茶
店乃隣に絵描あまた立ならびし商人
もの何り儒者ハ茶のせんじやう

こるく続きをきちんとしき店あ
近き泥の汚丹をも達あり須弥出ず
みな小さきものゝゐるゆるして何とぞ
差腹やすき茶小切店に有かたし
あいらん乃智よすがとはん風味廿四文の辻
太郎にあるまじきそのこゝろもち

青樓奇言 嘸首茶唐後編 全
艶示樓主人作

青樓錦木塚 全
同作

星月夜言 全五冊
唐本翻刻

青樓袖見 茶醉春窓覧 全
□鶴子戯作

此草紙あれ拾ひ集へし心ざし
少しく嘸茶屑と題して中の
神妙はきとんに徳ふものなり

柳塘山人誌

208
47

国立国会図書館　ゆふへの茶から 208-47
ガラス使用

208
帳
47

国立国会図書館　　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用

国立国会図書館　　ゆふへの茶から 208-47

ガラス使用